

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.65

ゲーム機を子どもに与える際の 注意点



NIT情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

コロナ自粛が続く子どもたちへのプレゼントにゲーム機を与えておられる家庭が増えてきた。家庭で過ごす時間が増え、時間を持て余した子どもたちはゲームやネットが唯一の遊びの場となつてしまった。これまでは「大きくなったら買ってあげるから」と幼い子どもに言い聞かせ、購入時期を遅らせてきた家庭も、仕方なく与える家庭が増えてしまった。そこで、子どもたちにネット対応ゲーム機を与える上での注意点を知っておいてほしい。

親世代のゲーム機といえば通信機能のないタイプが主流で、特に知らない誰かとつながる心配がなかったのだが、今のゲーム機はインターネット経由で見ず知らずの人ともつながることができるようSNSと呼ばれるソーシャルネットワーク機能を持つ。SNSと呼ばれるソーシャルネットワーク機能を持つ。SNSと呼ばれるソーシャルネットワーク機能を持つ。SNSと呼ばれるソーシャルネットワーク機能を持つ。

入門モデルとして考えるポータブルゲーム機シリーズ

このシリーズは長年販売されている人気機種で小型のモニターで使用するため、テレビ接続して大画面で過激に興奮してしまう機種とは違い、管理のしやすい機種になる。

ゲームソフトも店頭で購入して使用するタイプが主流なので、保護者側での管理がしやすく、小学校低学年に適している。ただし、知らない人とゲーム上で会話をしないよう親子でルールを決め、ペアレンタルコントロール設定で親の管理下においておく必要がある。

テレビにも接続できるポータブルゲーム機モデル

テレビに接続できるタイプと単体で使用する2つのモデルがあるが、過激なゲームソフトもあり、高照度の画面での使用から依存傾向になりやすい機種でもある。ゲームソフトに関してはダウンロード版も多く、親に無断でコンビニで購入し、課金しながら使用するなど、お金にまつわるトラブルも多く起きている。

使用する場合は、できるだけ小学校高学年以上を勧める。もし就学前の児童に持たせる場合はソフトの利用推奨年齢を確認し、必ず利用時間を守る習慣を身に付けさせることが必要だ。

スマホゲームは入門ゲームではない

スマホゲームは無料ゲームが多く、気軽に始められるため、幼い子どもにもつい触らせてしまいがちだが、決してスマホゲームは入門ゲームではない。無料ゲームの多くは、広告やデータ収集などを目的としたマーケティングのためのゲームも

多く見受けられる。なぜ無料なのかを考えてみると、親のスマホで子どもが遊んでくれるからこそ、スマホに残っている親のデータなど漏れてしまう情報もある。機種変更した親の古いスマホより、子どもにはゲーム専用機種の方が安心なのだ。

ゲームソフトにも適した推奨年齢がある

ゲーム専用機のゲームソフトにはA、B、C等と推奨年齢があり、過激なゲームはC-15歳以上やZ-18歳以上という表示がされている。例えば人気ゲームの「あつまれどうぶつの森」はAの全年齢だが、「フォートナイト」はC-15歳以上となっている。推奨年齢が高いゲームは過激な表現が多く見受けられ、ゲーム上での喧嘩がそのまま学校内でのトラブルに発展した事例も多く、あまりにも幼い時期に長時間ゲームにのめり込んでしまうと乱暴な言葉づかいや、ゲーム依存となるリスクも高まる。

ゲーム機の使用はまず、ペアレンタルコントロールの設定から

ゲーム会社のホームページに、子どもたちを守るためのペアレンタルコントロールの方法が記載されている。使用時間に関する設定、課金に関する設定、知らない人となつながら設定などが可能だ。ゲーム機を子どもに手渡す前に、しっかりと設定しておきたい。

便利なインターネット、楽しいネットゲーム、でも年齢に応じたソフトを選ぶなければ、ゲームトラブルで悩むこととなる。ゲームがしたいと子どもが言い出す年齢になったら、よく子どもの言い分を聞き、身体と心を守るためにゲームとソフトを選んで遊ばせる必要がある。既にゲームが原因で親子喧嘩をされている方は、諦めず、投げ出さず、親子喧嘩を続けてほしい。時間はかかるが親の思いは必ず伝わる。親が諦めなければ、子どもは親を裏切らないのだ。